



地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、北海道地域ブロックと九州地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

北海道地域ブロックから

北海道地域ブロック担当理事
岡田 直人(北星学園大学)

この学会ニュースの「地域ブロック情報」を96号(2024年7月9日発行)を最後に、北海道からお届けできていなくて申し訳ございませんでした。そこで、この間の情報を簡単にまとめてご報告させていただきます。

2024年度下半期には、2025年1月21日に定例研究会「北海道におけるFuel Povertyと生活の実態 ―貧困と住環境・生活支援を中心にして」をオンラインで開催しました。ここでは、積雪寒冷地域である北海道からFuel Povertyに着目し、生活実態や住環境、生活支援などを考えてみました。報告者は、森太郎氏(北海道大学大学院工学研究院 教授)と松岡是伸氏(北星学園大学社会福祉学部 教授)でした。

3月8日には研究大会(自由研究発表)とシンポジウムをハイブリットで開催しました。自由研究発表は4本でした。シンポジウムは「ファミリーソーシャルワークをめぐる課題と展望」をテーマに、小山菜生子氏(社会福祉法人旭児童ホーム児童家庭支援センターかわわ センター長)、高石豪氏(日本ソーシャルワーカー協会)、今西良輔氏(日本医療大学 准教授)の3人のシンポジストから報告をいただき、ディスカッションを行いました。

3月30日には院生・若手研究会をオンラインで開催しました。テーマは「博士論文執筆の苦悩と経験」でした。報告者には博士論文を執筆し、2025年3月修了予定(当時)の江楠(北海道大学大学院)さんを招いて、「シングルマザーの健康とエイジェンシー ―博士論文執筆の困難と乗り越え方―」と銘打って、話題提供していただきました。

2025年度上半期には、6月25日に総会、9月6日にシンポジウムをオンラインで開催しました。シンポジウムはテーマを「予期しない妊娠等による困難を抱える方への支援」とし、吉田垂里沙氏(にんしんSOSほっかいどうサポートセンター)、屋代通子氏(特定非営利活動法人CAN)、江楠氏(北海道大学学術研究員)の3人のシンポジストから報告をいただき、ディスカッションを行いました。

8月には2年ぶりとなる学会ニュース2025年度①を発行しました。そのほかには、過去の資料のア

ーカイク化を進めています。

最後に、2026年の第74回秋季大会は北海道地域ブロックで開催いたします。学会による秋季大会開催担当に関する申し合わせにより、今後の秋季大会は地域ブロックの輪番制で開催されます。その第1回目が北海道となります。会場を北星学園大学(予定)とし、2026年9月19日(土)・20日(日)(予定)の開催に向けて、北海道地域ブロックの会員の互助で進めていきます。当日は、秋の5連休で行楽シーズンでもありますので、特に宿の確保ではご苦勞をおかけいたしますが、北海道の秋の自然と豊かな幸を楽しみにしていただいて、一人でも多くの参加をお待ちしております。

九州地域ブロックから

九州地域ブロック担当理事
片岡 靖子(久留米大学)

2025年12月6日(土)～7日(日)に、『共生社会への道筋～多文化共生とソーシャルワーク実践～』を大会テーマとし、大分県の別府大学にて、「日本社会福祉学会九州部会研究大会」第66回が開催されます。

大会のプログラムとしては、基調講演に日本福祉大学の添田正輝先生による『人間の多様性(Human Diversity)を基盤にした多文化共生ソーシャルワーク～国際比較モデル、自治体実装手法、専門職教育設計～』にご講演頂きます。

続いて、シンポジウムでは、『支援者は何を期待されているのか?～ともに築く共生社会のかたち～』をテーマに、NPO法人「Beautiful World」の小野ヤーナ氏、立命館アジア太平洋大学の須藤智徳氏、独立行政法人国立病院機構別府医療センター 医療福祉相談室長の井上祥明氏、NPO法人マックネットシステム外国人支援部 クレシタ 外国人受け入れ医療コーディネーターの甲斐しのぶ氏によりご講演頂きます。

九州地域においても介護現場への外国人労働者の雇用は増加しており、多文化共生への取り組みが急がれています。不足する介護人材の確保を安易に外国人労働者で補おうとすることに懸念を感じています。多文化との交流に慣れていないわが国は、多文化を受け入れる土壌作りが急がれます。「異文化に対するセンシティブティ(sensitivity)」を磨くトレーニングが必要であると考えます。他者をそしてその文化を尊重しようとの姿勢に基づいたソーシャルワーカー養成が急がれるとともに、社会福祉専門職養成を担う我々がそれに応えていく必要性も感じています。

会員414名(2025年10月現在)が所属する九州ブロックは、コロナ禍においても途切れることなく毎年開催されています。九州地域の研究者・専門職・市民の参加を得て、地域の福祉課題の提示を行い、共に考え、社会福祉学研究を発展させていく原動力ともなっています。さらに、若手研究者の育成にも尽力しています。具体的には本年度発刊予定である研究誌『九州社会福祉学』の出版である。本年度は22号を出版です。

次年度の2026年度は、西南女学院大学で開催予定です。本大会が継続している背景には、日本社会福祉学会九州ブロックを立ち上げた諸先輩方の努力があってこそだと思っています。この歴史を継続していくために、今後も尽力していきたいと思っております。